

JAPAN NOW

観光情報協会

Non-Profit Organization JAPAN NOW TOURISM INFORMATION ASSOCIATION

東京都知事が認証した「都市・環境・観光NPO」が発信する隔月刊情報紙

第42号 発行日2006年09月25日

Contents

| | |
|-------------------|---|
| 11月、札幌と横浜で講演会 | 1 |
| 東京五輪向けリニア新幹線を | 2 |
| 霞が関（19年度予算など） | 3 |
| 観光人国記（盛岡市長、四季亭女将） | 4 |
| 立教支部便り、COLUMN | 5 |
| お得な情報（ポワソン六三郎） | 6 |
| 飲酒運転と移動サービス | 7 |
| 気象と天気（地震） 会員名簿 | 8 |



岩手山と北上川、そして川岸の花壇。盛岡市いち推しの風景である。（盛岡観光コンベンション協会提供）

道州制や新千歳空港国際化、 農業と観光に焦点あて講演 11月に第2回「大北海道圏の時代」を開催へ

JAPAN NOW観光情報協会（松尾道彦理事長）は、北海道観光連盟との共催により11月9日午後2時から札幌市の「ホテル・ライフオート札幌」で、第2回「21世紀は大北海道圏の時代」（観光立国フォーラムin札幌）を開く。3人の講師が道州制の導入や懸案の新千歳空港の国際線ターミナルビルの建設、農業・食糧と観光の発展策を示して将来を展望する。

当日は、JN協会の松尾理事長（写真左）、坂本北海道支部長（JR北海道会長）我孫子北海道観光連盟会長（写真右）の主催者挨拶のあと、高橋はるみ北海道知事、上田文雄札幌市長、江口稔一北海道運輸局長、南山英雄北海道経済連合会会長ら来賓挨拶がある。

引き続きフォーラムに移り、国土交通省の鈴木久泰航空局長が「新千歳空港の国際線ターミナルの建設」について、総務省の小川自治行政局行政課理事官が北海道における「道州制の導入に伴う課題」について、農林中金総合研究所の大多和巖社長が「北海道の農業・食糧と観光の発展策」について講演。

講演のあと午後5時過ぎから来賓や講師を囲んで懇親会を開く。

JN協会は昨年11月に第1回「21世紀は大北海道圏の時代」を開いたが、約300人が参加し、好評だったため、第2回を開催することにした。会費は懇親会費を含め5000円。北海道新聞社が後援する。

参加希望の方はJN協会か北海道観光連盟（011-231-0941）へ申し込んで下さい。

「食育・動育・心育と町起こし」 第2部は「港湾と観光の発展策」も 地元の熱意、初の横浜開催実現へ

JAPAN NOW観光情報協会と「郷土発展振興会横浜支部」は、11月28日午後1時から横浜市のロイヤルパークホテル「鳳翔の間」で、講演会を開く。講演会の第1部では、フード療法研究所の若山祥夫所長が「食育による町起こし」、日本プロスポーツ協会の山口弘典副会長が「動育（スポーツ）による町起こし」、郷土発展振興会の加藤愛恵会長が「心育による町起こし」について、講演する。

第2部では魅力いっぱいの国際港湾都市・横浜の港湾と観光について、専門家の話を聞く。国土交通省の柴田総合観光政策審議官や中尾港湾局長ら3人をゲスト・スピーカーとしてお招きする。

講演会のあと、講師を囲んで懇親会を開く。参加者は約150人を予定。会費は5000円を予定。

次回43号は12月5日発行予定です。11月9日札幌で、11月28日横浜で開く講演会の内容をそれぞれ掲載する予定。

超電導型「リニア中央新幹線」の実用化を!!

石原知事は最先端技術で外国都市に対抗しよう

リニア新幹線は、夏季五輪の実現と地方都市の再生にも効果

「リニアの国・東京でオリンピックを！」

2016年の夏季五輪の開催を目指す日本の候補都市は8月30日、東京都が日本オリンピック委員会（JOC）の投票で福岡市を破って決定した。石原都知事は来春の都知事選に三選出馬を表明し、五輪実現への決意を示しているが、ロサンゼルス、リオデジャネイロ、ローマ、ハンブルグなど知名度の高い外国の都市が16年五輪誘致に意欲を見せており、今後はこうしたライバルとの競争となる。

五輪誘致は開催都市の競技施設の良否だけでは実現しない。前回の東京五輪は東海道新幹線の開業などとの組み合わせで実現したが、今回も国土政策の立場から東京や国全体の魅力を打ち出し、海外都市に対抗しなければ成功しない。



そのセールスポイントは、石原知事が運輸大臣のころ山梨リニア実験線を決めた超電導型リニアモーターカーによる「リニア中央新幹線」構想を実現すること

だろう。リニアは地球温暖化の原因ともいわれる二酸化炭素の排出が少なく、省エネ型の超電導磁石で高速での大量輸送ができる。その効果を世界にアピールすることだ。安倍自民党総裁も政権公約でイノベーションによる日本の活力維持や道州制の導入・地方の活性化を掲げており、弾みがつくだろう。

（写真は山梨実験線を走るリニア）

実験は、着々と進んでいる

JR東海は、日本のオリジナル技術である超電導磁気浮上式鉄道（リニアカー・JR型マグレブ）の実用化のため、国土交通省、鉄道運輸機構などの支援を受けて1997年から山梨県都留市のリニア実験線（18.4^{km}、複線）で4両編成のリニア車両を使って試験走行を続け、延べ約53万^{km}の走行実績をあげ、3年前には時速581^{km/h}を達成している。国土交通省は実験結果について「超電導型リニアの実用化は技術的に可能」とのお墨付きを出している。リニア実験線は24^{km}延伸され全長約42^{km}となる。

リニアは、車両の連接台車に搭載した超電導磁石とU字型ガイドウェイの左右両側の側壁に取り付けた浮上・推進・案内コイルによる吸引、反発力で10^{cm}浮上して走る。リニア中央新幹線は時速500^{km/h}で走行し東京・名古屋・大阪停車の「のぞみ型」は約65分で結ぶ“飛ぶ鉄道”である。

営業列車は14両編成・定員950人で、車両は浮上して走るため在来型新幹線に比べ小振りである。料金は東海道新幹線とほぼ同じに設定することになりそう。

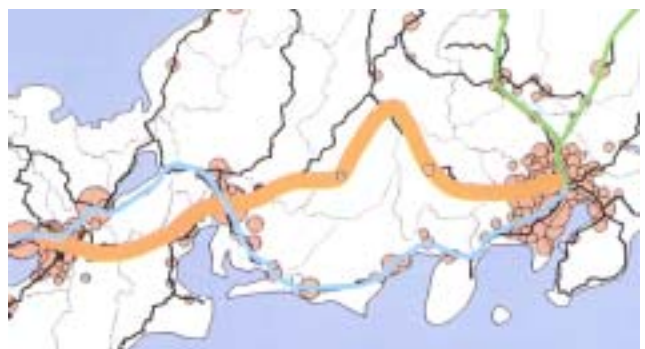
列島回廊型交通の中核に

リニア中央新幹線は、東海道新幹線などが地震でストップした場合に備えて計画され、主なルートへの地質調査も実施されている。中央新幹線は南北に細長い日本列島をリニア、在来型新幹線、高速道路、航空路や高度電気通信網と結び時間、空間を短縮する「日本回廊型の交通・通信網」（ジャパン・コリドールプラン）の中核となる。車両に搭載の超電導コイルは液体ヘリウムでマイナス269度に冷却すると、電気抵抗がゼロの超電導状態となり、これに一度電流を流すと永久に電流が流れて永久磁石の数十倍もの強力な磁界が発生し、列車を浮上走行させるが、車内の照明、送電所間の渡り運行にもこの電気が使われ、効率的だ。二酸化炭素の排出が少なく、環境保全によい。

リニア中央新幹線が実用化されると、約8兆円から10兆円という建設費の投資効果（建設、電機、機械、鉄鋼、輸送機械など）の直接効果と産業連関的に金融、不動産、サービス、商業へも波及し、さらには旅行者やビジネスマンの時間距離短縮や情報効果など、その乗数波及効果は20兆円を超え、日本経済の長期安定にも貢献するだろう。

超電導リニアの実用化は超電導発電、電力の貯蔵による輸出など新技術の開発を促し、世界的な石油争奪や原油高騰による影響を緩和する効果も期待できる。そのリニア中央新幹線の実用化の課題は建設費の調達だが、政府が道路財源の一部をリニア建設に振り向け、コイルの大量生産によるコスト削減を図ることだ。

（JN協会事務局長 白澤照雄）



リニア中央新幹線想定ルート

（東京—名古屋—大阪）

空色は 現在の東海道新幹線

東京 電が関発の最新情報 国土交通省・総務省・財務省

観光立国の推進に56億円を計上

国交省 平成19年度予算で要求

国土交通省は8月29日、平成19年度予算の概算要求を発表。このうち外国人観光客1千万人（年間）を目標とする観光立国を推進するため、56億3900万円（前年度予算に比べ36%増）を要求し、新たに訪日旅行需要を創出するため国際会議、国際文化イベントの誘致によるビジネス需要の拡大やインドなど有望新興市場の開拓を進める

また「日中韓域内外の観光交流拡大計画」による三国共同の観光交流拡大策や自治体、民間による地域観光の振興を進める。

新幹線整備事業に2637億円

超電導リニア技術開発で32億円

国土交通省は、平成19年度鉄道局予算の概算要求で整備新幹線の事業費として2637億円を要求した。北海道新幹線の新青森～新函館間を始め、東北新幹線の八戸～新青森間、北陸新幹線の長野～金沢・白山総合車両基地間及び福井駅、九州新幹線の博多～新八代間及び武雄温泉～諫早間が対象となる。

鉄道局は、山梨県都留市のリニア実験線で実用化試験を続けている超電導リニアモーターカーの技術開発事業費として32億円を計上し、高温超電導磁石の開発事業では2億2000万円を要求した。

九州は“温泉王国”

環境省がまとめた全国の温泉（源泉）の分布は、別府や湯布院を抱える大分県が5053でNO1。2位は鹿児島、5位に熊本県が入っている。ちなみに熱海や修善寺、伊東がある静岡県が3位、北海道が4位となる。（総源泉数は、27644ヶ所＝2005年3月）

住むのは東京、行ってみたい北海道

日経の調査によると、行きたい地域のトップは北海道、ついで京都、沖縄。

一方、住みたい場所となると、東京が1位（「行きたい」では、大阪について5位）。大観光地、大都市優位が浮かび上がっている、と調査した日経リサーチの分析。

リニアモーターカー試乗会のお知らせ

JN協会は、会員の皆さんから希望が多かった「リニアモーターカー」の試乗会を、下記の通り10月27日に行います。須田寛・JN協会副理事長（JR東海相談役）のご手配によるもので、定員25名限り。ご希望の方は、10月10日までに事務局まで、お申し込み下さい。希望者多数の場合、抽選となります。

当日は、午前10時にJR中央線大月駅に集合、バスで実験線まで。会費は2000円（大月までは自費です）。

海外からの観光客誘致目指す

静岡県生活・文化部長

大村義政氏（おおむら・よしまさ）

有数の観光地、熱海や伊豆を抱える静岡県も、現在は泊り客が伸び悩んでいる。観光を担当する大村氏に、話を聞いた。（聞き手・阿部和義）

静岡県は観光業が盛んだと聞いていますが、昨年は観光客が何人ぐらい来たのですか？

確かに静岡県は観光立県です。昨年は前年に比べて横ばいの1億3千万人が訪れています。日帰り客が多く泊り客は2700万人でした。泊まり客は日帰りに比べて3倍のお金を落としてくれます。

静岡県の観光地の抱える問題はなんですか？

一番の問題は宿泊してくれないということです。「安近短」というのが、安くて近くて短いという旅行が増えています。その上に伊豆、熱海、伊東の観光地は大きな旅館が、団体客目当てに大浴場を作るなど設備投資に金をかけました。

ところが、パブルがはじけて団体は減り、個人の観光客が増えて、大きな設備投資をした旅館は廃業したり倒産に追い込まれています。その上に海外旅行の方が料金が安いという現象が出てます。中国、韓国2泊3日で5万円で、伊豆と一緒にです。

そうした中で県としてはどのような手を打っていますか？

国内の客でなく中国、韓国から客を増やすようにしています。幸いに伊豆は川端康成の「伊豆の踊り子」で有名であり、ネームバリューがあります。今年春に開かれたAPEC（アジア太平洋経済協力会議）の観光事業部会は静岡で開かれました。

大村さんは観光関係に、広報室長時代の経験を生かしているいろいろな手を打っていますね。

「伊豆ブランド創生事業」は、1999年に始めた「伊豆新世紀創造祭」の続編です。00年6月の群発地震で中断され、その続きをとということで、女性専用車両で船原温泉や下賀茂温泉に行くプランを実行し、マスコミも取り上げました。

石川知事は広報の7割は観光である、といっているようですが。

そうです。石川知事は観光振興に熱心です。こんど静岡空港ができるので、外国客を招きやすくなります。日本の象徴である富士山を世界遺産にする運動が、うまくいくとよいと思います。

「日本の観光を考えるー日本は寿司だけではない」

グレアム・フライ駐日英国大使が日本語で講演する。

日時は2006年10月8日（日）会場筑波学院大学（茨城県つくば市吾妻3-1）で。入場無料。

参加希望の方は岩田研究室E-mail: jafft@tsukuba-gac.jp またはFAX029-858-7388まで。

日本国際観光学会第7回全国大会「日本のインバウンドーその魅力をどう創る」開催に際しての基調講演。

観・光・人・国・記

住みやすさ「日本一」に磨きを！ 市民を起点とし、花と緑の街づくり目指す



盛岡市長 谷藤 裕明氏

(たにふじ・ひろあき)

1978年、早大教育学部卒。同年4月、有限会社橋市倉庫専務取締役。1991年、岩手県議会議員当選、2001年県議会議員。2003年9月、盛岡市長に就任。

日本で一番広い県・岩手、その県都が盛岡市。

JR盛岡駅から繁華街に向かって北上川に『開運橋』が架かっているが、「駅前この橋、二度泣き橋といわれています。転勤などで初めて盛岡に来た人は、随分遠くへ来たものだと思って泣き、また盛岡を離れる時には、盛岡の暮らしや人情に触れて、離れたくない、と泣くのです」と谷藤市長。さらに「時事通信社の調査で、県都としては盛岡市が2年連続“住みやすさ日本一”に選ばれています」と、誇らしげに語る。

地元の人々が住みたいと思っている街でなければ観光客を呼べない、とよく言われているが、豊富な観光資源プラスが盛岡にはある、と市長は言いたいのである。代表的な観光資源を、項目だけ並べると市長が先頭で行進するチャグチャグ馬コ、さんさ踊り、石割桜、わんこそば、盛岡冷麺、じゃじゃ麺の3大麺、南部鉄器、さらに石川啄木、宮沢賢治、原敬、新渡戸稲造ゆかりの場所等々。なかでも「夏のさんさ踊り、総勢三万三千人の大パレードは圧巻です。延べ一万四千個の太鼓を揃えるのは、よそにはありません」「石割桜は国の天然記念物ですが、もう一箇所、龍谷寺のモリオカシダレも、そうです。市内に二つの天然記念物の桜がある街は、これも他にありません」と、市長の説明に熱が入る。

谷藤市長は、こうした伝統に加え、佐民を起点とした新しい街づくりにも取り組む。「隠れた資源を掘り起こし、さらに“盛岡ブランド”として発信する。今年は、その元年と位置付けています」。

盛岡市内には、歩いて回れる観光資源が多いが、ちょっと見上げると四季の花を盛ったハンギング・バスケットが500個も、彩りを添える。今年7月には繁華街の空き店舗を使った『盛岡市つどいの広場』を開設した。これは、転勤族と地元の人たち、親子の交流の場を狙った企画だ。大学生参加のプロジェクトも動き出している。

そんなところへ強力な援軍が加わる。来年4月スタートするNHKの朝の連続ドラマ『どんど晴れ』は、老舗旅館に入った若女将の奮戦記。市内口ケもたっぷり、大いに盛岡市のPRとなることだろう。

盛岡市は、東北・秋田新幹線や高速道路網の整備で、北東北3県の交通の要衝でもある。「例えば適

切かどうか分かりませんが、パチンコ台の下の穴に玉が吸い込まれるように、岩手県内はむろん青森、秋田を訪れる観光客が、盛岡市に集まってくださることを期待して、整備を進めています」と、市長。

人口30万人の盛岡市、市制施行120年を前に中核都市を目指す。エネルギッシュなスポーツマン・谷藤市長の夢は膨らむ。

公的な役割もこなす才媛女将 和風旅館・つなぎ温泉『四季亭』

英会話ペラペラ、商工会議所の女性トップも務める、そんな林晶子さんが女将の『四季亭』は、盛岡市郊外の「つなぎ温泉」にある。

前九年の役（1062年）、八幡太郎義家が愛馬を繫いだ、という言い伝えから、温泉の名が付けられたという。弱アルカリ性の硫黄泉で、“天然の化粧水”とも呼ばれる。

ホテルビルが林立する一角の奥まった小高いところにある数寄屋造りの和風旅館は、逆に目立つ。

忙しい女将の都合でインタビューが遅くなったため、格安料金で泊まらせて頂くことになった。食事はもちろん一流だが、気に入ったのはメニュー（お品書き）に、四季の花々、岩手県の名所がカラーで散りばめられていることだった。

林女将は、若いころアメリカ留学の経験があり、東京で外資系銀行の秘書も務めたことから、英語力には定評がある。県の商工会議所連合会と盛岡商議所の女性会会長、JTB協定旅館ホテル連盟岩手支部の女性委員長と、肩書が多い。「これでは本業に差しさわりが」と聞くと「それが気になって、そろそろ交代させて、と言っているのですよ」と嫣然と笑う。だが、そうも参らない。あちこちから、お声がかかるしそれが本業にもプラスになるのだろう。

食事は、“地産地消”を目指し、地の物主体に工夫している。朝食について小岩井農場の牛乳は抜群だった。「岩手県産のマツタケ（料理）が人気ですが、最近は東京の業者が札束を持って買いあさり、こちらの値段も東京と変わらなくなってしまった」よし。先だって、増田・岩手県知事らと観光振興のシンポジウムにパネラーとして参加した際、“地産地消”という念仏だけではダメ、具体的な方策を考えないと、と噛み付く一幕もあったようだ。

岩手県の食料自給率は104%。「（よそへ）もっていかれては、自給もなにもありません。冗談ですが、いっそ岩手県で独立国を作りませんか、と言っているのですよ」と女将。

さて、肝心の旅館業だが、つなぎ温泉も多くの全国の温泉地同様、隆盛とはいえない状況。ある観光関係者は、もう一工夫要るのでは、と指摘する。多彩な才能をもつ晶子女将の、これからに期待したいものである。（市長ともインタビュー白澤、加納）





外国人ツアーレポート

立教支部長 田久保万里夫

私たちが外国人ツアーの活動を始めてから早くも1年が経ちました。最初は問題が山積みでしたが、最近では一年生の頑張りもあり、毎月コンスタントに2本のツアーが実施できるまでに成長しました。

新しいツアーも続々と生まれています。今回はその中の1つ、『和紙作りと巢鴨、駒込巡り』のレポートをお届けします。

8月26日(土)に行われたこのツアーにはホスト役の日本人7人、ゲストは韓国、ベトナムなど7カ国15人。ツアー中はホストである日本人とゲストである外国人だけではなく、違う国のゲスト同士が仲良くする場面も数多く見られました。まさに国際交流の場がそこにはありました。

さてさて、ツアーではまず新日本橋にある『小津和紙博物館』を訪れました。ゲストには実際に和紙作りに挑戦してもらいました。



自分が作った和紙が後日自宅に送られてくるとあって、一生懸命に自分だけの和紙を作っていました。

今回体験したのは和紙作りのほんの一行程だけでしたが、手間ひまかけて美しい和紙を作る職人さんの凄さを体感することができました。

博物館見学では和紙の持つ優れた魅力と江戸時代の人々の生活を窺い知ることができました。1度作られた和紙は1000年以上ももつといます。和紙はパルプよりも手間と時間がかかることは事実ですが、それが持つ優しい肌触りや、独特の色合いなどは和紙でしか表現できません。こういった日本の良き文化を絶対になくしてはならないと思います。

その後一行は地下鉄に乗って『おじいちゃんおばあちゃんの原宿』と言われている巢鴨へ向かいました。ここではシニアファッションの最前線を体験しました。皆一様に地味なパンツをはき、奇抜な柄のシャツを着ているのです。残念ながらゲストの方たちにはこのようなオシャレの奥深さには関心がなかったようですが・・・しかし、巢鴨の持つ独特の雰囲気と人情には親しんでいたようです。

最後に、駒込にある日本庭園、『六義園』を訪れました。ここでは、ゆっくりと日本庭園の美しさを鑑賞する予定だったのですが、この季節、藪蚊が大量発生しており、みんなして足をブククリ腫らして鑑賞どころではありませんでした。

しかし、それを除けば今回のツアーは大成功だったのではないのでしょうか。日本文化の良さを存分に味わうことができ、外国人のゲストだけではなく日本人が初めて参加しても楽しむことのできる内容だったと思います。

今後も月に2回の割合でツアーを企画し実施していく予定ですので次回のレポートもご期待ください。

C O L U M N

生きる環境の変化

物書きには旅好きが多い。取材旅行ということもあるが、やはり非日常の世界で感性が触発されたり、ヒントが浮かんでくるということもあるに違いない。

現代でも椎名誠、沢木耕太郎、多和田葉子、坂東真砂子のように旅三昧の作家は枚挙に暇がない。しかし、坂東のようにタヒチ島に住まいまで移してしまった例は珍しい。

「ドライブの楽しみは、鶏の死骸を発見することだ。私の住むタヒチ島では、野生の鶏がたくさんいて、よく車に撥ねられて死んでいる。それを拾って、新鮮ならば食用に、傷んでいれば犬の餌にするのだ」(18.7.7付日経夕刊)と、日本では考えられもしなかった心境変化を見せる。猫好きな坂東は都市生活に獣の死の違和感を感じてきたはずだったが、路上に猫の死骸を見ても胸を痛めることはなくなったという。

私にはこの鶏の無残な死に方というのがひどく気になった。かつてタクシーで台湾の田園地帯を走行中アヒルの群れに出会った。ドライバーは気にも留めず、そのまま群れの中へ突っ込んだが、一羽とてひき殺されたアヒルはいなかった。一方、バンコックからシンガポールまで3,000kmをバスで走った時には、道路上に彷徨い出た野犬の狼狽ぶりが哀れだった。一週間走って路上に見た死骸は13匹。そのうち、2匹はわがバスが殺してしまったものだ。動物とて環境の変化に対応できるものとそうでないものでは、生死が逆転する。環境の変化にうまく順応できたものにこそ、文明社会では生きる資格があるようだ。

かつて、破滅派作家檀一雄が「火宅の人」の執筆中に行き詰まり放浪の旅へ出て、ポルトガル大西洋岸の小さな町・サンタ・クルスで、1年4ヶ月もの間癒しの生活を送った挙句、帰るや一気に残りを書き上げ、その3ヵ月後に慌しく世を去った。5年前その辺鄙な町へ行ってみた。そこには確かに檀の心を開かせ、気持ちを和ませる穏やかな環境があった。

(近藤)

お得な情報

「日本で見つけた 世界おいしい物語」

ポワソン六三郎

ポワソンというからには、フランス語？六三郎というからには道場六三郎、知る人ぞ知る元祖「料理の鉄人」で、和食の大家である。この店、世界の食材を駆使しながら道場の和の心を受け継いだ、西洋風会席料理。

インテリアも渋いグリーンの大大理石に石と木のコラボレーション。テーブルクロスを使いフランス料理かイタリア料理かといったゴージャスでモダンな雰囲気、オープンキッチンで料理人が素材と闘う姿がみられる。和食器と洋食器を上手に組み合わせで独特の盛り付けである。

ランチは、とくに女性を意識して健康や美容によい、有機野菜を使ったヘルシーな料理である。

日本独特の素材も調理法が違う。9月から10月までの生いくらの茶碗蒸し1500円は、いくらに塩や醤油の風味はしない。コース料理は野菜5、魚4、脂質1の割合で調理するのがポリシー。ランチは「からだにやさしい料理」2000円、会席は6000円。

ディナーは会席が8000円から。毎月メニューが変わるので、毎月訪れる常連も多い。

一品料理も黒胡麻豚トロ坦々麺が1200円、一口チーズ800円。海老と野菜の香り揚げ1000円。その他季節の珍味が味わえる。

ランチは、11:30 - 14:45まで。

ディナーは17:30 - 22:30まで。月曜定休。

住所は港区赤坂2-14-5 プラザミカド1F。
(大島 慎子)

日本唯一のホテル客室常備文化情報誌

JAPAN NOW

1985年の創刊以来、内外の多くのお客様にご愛読いただいた「JAPAN NOW」誌は、2005年度版より日英全文対訳となり、学校教材としてもますます高く評価されています。3月末に出来上がった2006年度版は、マンダリンオリエンタルホテル東京、グランドハイアット東京など、東京を中心に新たに開業したラグジュアリーホテルを含む110館55,000室の客室に常備されます。



日本文化の再発見を通じ新たな観光資源を紹介し、現代日本を代表する執筆者やカメラマンたちによって日本のいまを生き生きと伝えることが、「JAPAN NOW」誌の編集方針です。

2006年度版は、日本人の伝統的な美意識を時間という視点からとらえなおした「ときとうつろい」と、現代の日本がいかにしてつくられたかを問い直す「近代の面影」という2つの特集を中心に構成されています。

1部2000円(送料別)で購入できます。お問い合わせは(株)ジャパン・ナウへ。電話・FAX 03-3536-1751

道の駅 スタンブラリー

関東「道の駅」(115駅)では、7月1日(土)から12月15日(金)までスタンブラリーを実施している。利用促進を図るとともに駅同士の連携交流、「道の駅」の知名度アップなどによる地域の活性化の基盤づくりを目的として全国の道の駅で実施されている。

先ず1冊100円のスタンブラリー帳を購入し、利用した駅でスタンプを押印する。スタンプの数で「道の駅」特産品引換券など賞品が当たる。

地域ごとに実施期間が決められていて、押印されたスタンブラリー帳とアンケートに記入して応募すると抽選で賞品を受け取ることができる。

先ず応募者全員にオリジナルステッカーが贈られスタンプ10個以上で、チャレンジ賞として特産品引換券1,000円相当300本をはじめ、スタンプ80個以上で、駅長賞として10,000円相当の特産品引換券20本が当たる。全ての駅を完全制覇すると全員に認定証とゴールドステッカーが贈られる。

問い合わせ：関東「道の駅」

連絡会事務局、電話：048-601-0193

道の駅 富士吉田(山梨県)

富士山の麓にあり、2004年度、関東「道の駅」スタンブラリーのアンケートで、好きな「道の駅」の第6位に選ばれた。物産館では地酒、ミネラルウォーターなど地域の特産品が並び、レストランでは、しっかりした歯ごたえの太麺が評判の名物「吉田のうどん」が味わえる(午前11時～午後5時)。

また水汲み場(写真)では富士山の名水を味わうことができる。この名水は、富士山に降った雨や雪が数十年の年月をかけ浄化され、伏流水となったものを地下100mから汲み上げたもので、多量のミネラル分、特に「バナジウム」の含有量が高い。営業時間は、午前9時から午後7時。駐車場、トイレは24時間利用できる。場所は、国道138号線沿い。

電話：0555-21-1225 (堤 りり)



【会員募集】

都市の再生、観光振興、環境保全の市民活動に賛同する会員を募集しています。

個人会員(1口5千円)、団体会員(1口5万円)

東京都渋谷区代々木1-58-13小田急代々木ビル3階

JAPANNOW観光情報協会(電話03-5304-9500)へご連絡ください。

会員の投稿を歓迎します

情報紙の充実を目指して！！

観光情報紙2006年12月号への個人、団体会員の投稿を歓迎します(400～500文字程度)。皆様のご意見を、どしどしお寄せ下さい。詳細は事務局まで。

発行は2006年12月5日。締め切りは11月30日。

視点「飲酒社会における移動サービス改革」

高崎経済大学教授 寺前秀一

福岡市の公務員が引き起こした死亡事故を契機に、飲酒運転に対し世間の厳しい目が向けられている。事故抑止効果を狙い、飲酒運転の厳罰化、エンジン始動装置へのアルコール感知器「インターロック装置」の標準装備化等が検討され始めたと伝えられる。

筆者は飲酒社会を否定する立場に立つものではなく、むしろ飲酒は高度な文化をうみだし、一定の経済効果も発生させる重要なものであると考えている。従って、飲酒そのものではなく、飲酒による運転を否定するものである。しかしながら、深夜早朝を含め乗合交通サービスがある程度確保されている首都圏、阪神圏を除き、地方都市はもとより福岡等の地域ブロック都市においても、飲酒運転時に利用者ニーズに適合するような移動サービスが提供されていないことも現状である。飲食後に手軽に利用できる移動サービスが提供されてはじめて飲酒運転が撲滅されると考えるのである。

交通事故被害者の経済的救済措置が、自動車損害賠償保障法及び判例により充実強化され、国際的には日本は高額補償社会になった。その結果、逸失利益の相続を前提とした一時金払いのわが国においては、笑う相続人問題とまではいわずとも、制度的見直しが必要となってきた。倉田卓次判事は早くから定期金賠償制度を提唱され、筆者も労働者災害補償保険法に倣い、自動車損害賠償保障法においても年金システムを採用することを主張してきたところである(拙著「新世紀交通課題」(株)きょうせい pp187~215)。

高度な福祉社会において最低限の生活を社会が保障する場合、逸失利益の相続を前提とする損害賠償とは何かという根本的な問題がそこに存在する。愛娘を交通事故で失った二木雄策氏は著書「交通死」(岩波新書)のなかで、自動車保険が介在することにより加害者に実質経済的なペナルティーが課されない矛盾を嘆かれ、事故抑制効果が削減されているとする。運行供用者責任ではなくドライバー責任を問う、保険の利かない懲罰的損害賠償制度が叫ばれる背景がそこにある。しかし、飲酒運転は

加害者へのペナルティーの強化だけではなくならないであろう。一方、移動サービスをめぐり、本紙でも介護サービス、福祉サービスを中心に、住民の足を確保する政策論議は活発に行われているが、飲酒客に対する運送サービスを如何に提供するかについての論議はまったくなされていない。宿泊引受義務を課されている旅館業者も酔酩酩客は免除されているくらいである。運送引受義務を課されているタクシー事業者も同様である。つまり飲酒者対策を制度がまともに取り扱っていないのである。

筆者は本紙において幾度となく「ゆびタク」、「モバイルタクシー」を提唱しているが、その趣旨は、現行道路運送法の規制スキームのもとでも、旅行業法の手法を駆使すれば利用者ニーズに適合した高度なサービスが提供できると考えているからである。正規の単品企画(主催)旅行としてタクシーサービス等の移動サービスを提供する場合は、当然のことながら道路運送法の運賃規制等がかからない合法的なサービスを提供できる(拙著「観光政策・制度入門」参照)。さらに、飲食店、駐車場に一種の旅行業的機能を持たせ、相乗のアレンジによる効率化(この場合無料で相乗りあつ旋を行えば規制はかからない)を計れば更に簡便な手続きで実施できる。高機能付携帯電話等を活用すれば簡単なことともなっている。代行運送サービスと組み合わせれば更に高度なサービスが構築できる。

楽しくお酒をいただき、帰途は飲食店あるいは駐車場が手配してくれた割安な移動サービスが活用できるようにしなければ、飲酒運転の悲劇は減少しないであろう。道路運送法の改革には時間がかかる。現行法のもとにおいても十分に対応可能なものであり、タクシー事業者のビジネスモデル構築が期待される次第である。

原会員の写真が新宿で展示

JN会員であり市長インタビューの仕掛け人である原清昭さんの写真が、9月28日から10月4日まで新宿区西新宿6-12-6の「コアロード西新宿」の1階で展示される。『写心クラブ』第一回の写真展で、全日本写真連盟の会員中心に20人の作品が集まる。

あめりか観光通信 その7 ~米映画のロケ地~

アメリカ映画のロケ地に行きませんか!

今回は私が携わっているアメリカへの旅行促進キャンペーンについて少し宣伝をさせていただこうと思います。

今年の夏、テレビであるコマーシャルが流れましたが、気付かれた方も多いと思います。ニューヨークの自由の女神の映像から始まる30秒コマーシャルは映画のシーンを繋いだもの。「メイド・イン・マンハッタン」「スイート・ホーム・アラバマ」といった風にタイトルに州や都市の名前が使われている映画をいくつかピックアップして作られま



した。映画のシーンにBGMがあるだけで、メッセージは最後の「あの映画の舞台に、ようこそ」と、T I A (トラベル・インダストリー・アソシエーション・オブ・アメリカ) が運営しているウェブサイトのアドレスだけです。何のコマーシャルかと不思議に思った方も多かったようで、ブログには様々なメッセージが寄せられ関心の高さを窺わせました。

映画を通してアメリカに憧れたり、ロケ地を訪れてみたいという人たちは年代を超えて多いことを痛感しました。皆さんもいろいろな思い出にまつわる映画があるのではないのでしょうか。

コマーシャルのテレビでの放映は終わりましたがウェブサイトで見ることができます。また、映画にちなんだクイズ・キャンペーンも実施しています。是非トライしてアメリカ旅行を当ててください。

www.seeamerica.jp (JN会員 井上 嘉世子)

マグニチュードと震度

マグニチュードと震度の違いは、マグニチュードが地震そのものの大きさを表すのに対して、震度はある地点での地面の揺れの大きさを表しています。

マグニチュードが大きな地震でも離れた所で起きれば震度は小さくなり、近くの地表面から浅いところで発生すれば、マグニチュードが多少小さくてもその周辺の地表では大きな震度になります。

マグニチュードは、1935年にアメリカの地震学者リヒターが考案し、リヒター・スケールとも呼ばれます。リヒターは、震源から100km離れた、特定の種類の地震計が記録した最大の針の振れ幅でマグニチュードを定義しました。実際には、ちょうど100km離れたところにあるとは限らないので距離によって補正を考案しています。

マグニチュードは地震計の種類などで、数値が異なるため、国際的に統一された規格はありません。しかし、その中で最も標準的なマグニチュードと考えられているのはモーメントマグニチュード(Mj)です。この値は

金森博雄博士が提唱したので、カナモリ・スケールとも呼ばれます。Mjは、断層の面積と断層すべり量の積に比例する量であり、物理的な意味が明確であるという点で非常に優れていますが、地震発生直後に行う地震の規模の推定には使えないなどの欠点があります。

そこで、気象庁では、変位と地面が動く速度(速度)を組み合わせた独自のマグニチュード(Mj)を使ってきました。この独自のマグニチュードはモーメントマグニチュードと良く一致するなどの利点があります。

一方、震度は、ある地点での、地震による揺れの大きさを示したのですが、日本では、気象庁震度階級が定義した10階級(0、1、2、3、4、5弱、5強、6弱、6強、7)に分けたものが使われます。しかし日本独自のもので国際的には12階級のMSK震度階級が使われています。

(日本気象協会 平松信昭)

★MSK震度階級：考案した3人の学者の頭文字、Medvedev(ロシア)、Sponhauer(ポーランド)、Kamik(チェコスロバキア)が作成した震度の等級。地震学・地震工学政府間会議(1964)で国際震度階級にすることになった。

会員名簿

(敬称略) (個人会員名簿は公表していません)

| | |
|------|--|
| 名誉顧問 | ： 松山善三(映画監督) |
| 理事長 | ： 松尾道彦(日本海事財団会長、前日本鉄道建設公団総裁) |
| 顧問 | ： 丹羽晟(前理事長、日本空港ビルデング相談役) |
| 副理事長 | ： 白澤照雄(JN協会事務局長)、岡村進(小田急電鉄顧問)、橋元雅司(元国鉄副総裁) 大島慎子(筑波学院大学教授)、小竹直隆(元JT B専務)、須田寛(東海旅客鉄道相談役) 横山善太(株)JALUX特別顧問) |
| 支部長 | ： 片山文彦(新宿支部)、水野卓哉(北陸支部)、田久保万里夫(立教支部)、長尾亜夫(九州支部)、 須田寛(中部支部)、岩田弘三(神戸支部)、坂本眞一(北海道支部)、梅原利之(四国支部) |

【団体会員】(2006年09月25日現在)

(株)朝日ネット、(株)アドバン、荒井建設(株)、アンデス電気(株)、安藤建設(株)、池田煖房工業(株)、(株)伊勢丹、(株)井六園ワールド、岩田建設(株)、(株)エスシー・マシーナリ、(株)HKIAアクシス、(株)大林組、隠岐の島町(島根県)、(株)奥村組、小田急建設(株)、小田急電鉄(株)、(株)小田急トラベル、鹿島建設(株)、鹿島道路(株)東京支店、大阪国際空港ターミナル(株)、(株)大塚ビルパレッジ、関西電力(株)、九城企業(株)、(株)九電工東京支店、九州電力(株)、九州旅客鉄道(株)、(株)熊谷組、(株)グリーンキャブ、群馬県、京浜急行電鉄(株)、(株)耕人舎、国光施設工業(株)佐川サポートサービス(株)、三協アルミニウム工業(株)、(株)三普旅行社、四国電力(株)、四国旅客鉄道(JR四国)(株)、清水建設(株)、(株)ジャルセールス、(株)JAL-DFS、(株)JALUX、(株)JT B、(株)ジェイアール貨物・リサーチセンター、消音技研(株)、新菱冷熱工業(株)、常磐興産ピーシー(株)、住友電設(株)、(有)西洋館センター、静和堂竹内印刷(株)、(株)銭高組、全日本空輸(株)、総合パーキング建設(株)、セントラルリーシングシステム(株)、(株)ダイエーコンサルタンツ、第一交通産業(株)、第一資材(株)、(株)大気社、大興物産(株)東京支店、大成建設(株)大成サービス(株)、大成設備(株)大成コーレック(株)、大鉄工業(株)北陸支店、大日産業(株)、(株)高尚、高砂熱学工業(株)、(株)竹中工務店、(株)丹青社、中部電力(株)、ティーシートレーディング(株)東京支店、電研工業(株)、東海旅客鉄道(株)、東急建設(株)、東京急行電鉄(株)、東京国立博物館、(財)東京観光財団、東京電力(株)、東光電気工事(株)、東芝エレベータ(株)、東北電力(株)、トーヨーカネツソリューションズ(株)、戸田建設(株)、名古屋鉄道(株)、西日本鉄道(株)、西日本旅客鉄道(株)、(株)西原衛生工業(株)、西松建設(株)、日墨ホテル投資(株)日本オーチス・エレベータ(株)、(株)日本海コンサルタンツ、日本空港ビルデング(株)、(株)日本航空インターナショナル、(財)日本交通文化協会、(社)日本添乗サービス協会、(株)日本ブランド建設、ネスレジャパングループ、箱根町(神奈川県)、箱根建設(株)、東日本旅客鉄道(株)、(株)日立ビルシステム、(株)日立製作所、(株)ビッグウイング、福岡空港ビルディング(株)、富士機材(株)、藤長電気(株)富士通(株)、プラネットワークス(株)、(株)フィールドサービス、北海道旅客鉄道(株)、北海道電力(株)、北陸電力(株)、北海道空港(株)、(株)ホテル小田急、(株)ホテルメトロポリタン、前田建設工業(株)、(株)ホテルマリックス、マイナミホールディングス(株)、三井住友建設(株)東京建築支店、三菱電機(株)、(株)ミルックス、(学)森谷学園、(株)山武ビルシステムカンパニー、有楽土地(株)、(株)USEN、横浜貨物総合(株)、横浜ビル建材(株)、(株)ランゲージネット、菱重輸送機エンジニアリング(株)、りんかい日産建設(株)

特定非営利活動法人(NPO)

人と都市・観光の地球時代を、市民が支えます！

JAPAN NOW
観光情報協会

〒151-0053 東京都渋谷区代々

木158-13

小田急代々木ビル3F

発行人：白澤照雄(JN協会事務局長)

編集長：加納 隆(JN協会理事)

発行部数：3000部 主な配布先：会員、中央官庁、
地方自治体、民間企業、マスコミなど

編集後記

JN情報紙の取材、編集に携わって5年近く。加齢による目の弱化、根気が続かないなど、そろそろ引退かな、とも思う昨今である。

それにしても、JN協会の皆さんの姿勢には感服させられる。原稿料無しなのに、毎号締め切りを守って、書き続けて下さる。近藤氏の「COLUMN」、阿部氏の「霞が関情報」、大島副理事長の「世界美味しい話」、井上さんの「あめりか通信」(井上さんの前は満田さんの「イタリア通信」)、堤さんの「お得な旅情報」、社外執筆の日本気象協会「お天気の話」。改めて深い感謝の意を表したい。

創刊号から「提言」を連載している寺前理事(高崎経済大学教授)は、今回は、タイムリーな「視点」飲酒運転問題を取り上げてくれた。(加納)